

平成29年度事業計画

I ツーリズムの創造・発展	
(1) ツーリズム企画推進事業	
① 戦略的なツーリズム企画の推進 (担当：経営) (担当：地域)	事業企画委員会や戦略会議のもと、会員相互の連携により事業企画・推進を図るとともに、事業企画等の提案を行う。
② 各種協議会 (担当：地域) (担当：誘致) (担当：MICE センター)	ツーリズムおおいたが事務局として協議会の運営にあたり、総会等の開催及び事業企画の提案、推進を図る。 ・大分県ふるさとガイド連絡協議会 ・大分県教育旅行誘致協議会 ・大分県MICE誘致推進協議会
(2) 地域連携事業	
① 六郷満山開山1300年誘客キャンペーン事業実行委員会との連携(新) (担当：地域)	○平成30年の六郷満山開山1300年のプレ年度として、観光客の受入態勢や環境整備を進める実行委員会等と連携を強化し、特別感の創出や周遊促進素材の充実等による相乗効果の最大化を図る。 ○二次交通整備に向けて、バスを活用した実証実験に取り組むなど、地域の状況に適した受入態勢の整備を促進し、新たな観光地としての定着を促進する。
② 観光圏等地域連携観光組織との連携 (担当：地域)	○豊の国千年ロマン観光圏では、引き続き協議会に事務局として参画する。 ○地域連携型の観光組織等と連携して、広域観光の推進を図る。
③ 県内DMO候補法人・地域観光協会との連携(一部新) (担当：経営) (担当：地域)	○県内のDMO候補法人等との連携を強化し、取組内容の役割分担、相互連携により効果的な事業執行を図る。 ○県内の地域観光協会との連絡会議等を通じた情報共有と協働により、各事業における相乗効果を促進する。
④ 国民文化祭等との連携(新) (担当：経営) (担当：地域) (担当：誘致)	○平成30年に開催される第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭と連携したカルチャーツーリズムの推進及び来県者の県内周遊の促進を図る。 ○大分県立美術館や芸術文化関連機関等と連携して、インバウンドを含む観光誘客施策の調査・研究に取り組む。

II 地域マネジメントの推進

県域版DMOの機能を効果的に発現するため、商品企画や販売、マーケティング機能などの強化を図るとともに、域内DMO組織や観光協会、関係団体等との連携を強化し、県内観光の発展をサポートする。

(1) DMO推進事業

<p>① 商品企画・販売機能の強化（新） （担当：地域）</p>	<p>○おんせん県グッズ等の物販と地域における着地型企画商品を一元的に販売できる基幹システムを構築する。 ○観光関係者等と連携して、県内の各観光地を結ぶ周遊企画商品の造成に取り組み、県内周遊を促進する環境を整備する。</p>
<p>② マーケティング機能の強化（新） （担当：地域）</p>	<p>○客観的な観光関連データの集約・分析、誘客に結びつく戦略の立案に必要なマーケティングを実施するため、データ保有が少ない訪日外国人観光客の動態調査等を実施する。 ○マーケティング会議を開催し、市町村や地域観光協会、旅行会社及び宿泊施設等との連携によるデータ収集の検討・協議を行い、より迅速に必要なとされるマーケティング情報の提供に向けた環境整備に取り組む。 ○県内各地の観光動態調査における調査項目等の統一化や効率的な調査実施方法等を調査・研究する。</p>

(2) 地域磨き対策事業

<p>① 魅力ある地域・商品づくりの推進（新） （担当：地域）</p>	<p>ナショナルパークにおけるモデルコースの提案・ガイド養成、富裕層向け小規模クルーズの誘致、要望の多い二次交通整備の社会実験など、個人旅行者や訪日外国人観光客の増加に対応できる観光素材の整備を促進し、魅力ある観光地域づくりに取り組む。</p>
<p>② おもてなし体制の強化 （担当：地域）</p>	<p>○外国人観光客向け通訳サービス（おんせん県おおいた多言語コールセンター）において、観光情報に対応できる態勢構築（通訳案内士や観光協会等との連携強化）に取り組むとともに、九州各県とのサービス連携を検討する。 ○ラグビーワールドカップや観光キャンペーン等を見据えたおもてなし研究会（仮称）を開催し、おもてなしの質の向上を図る。</p>
<p>③ ガイド等観光人材の育成 （担当：地域）</p>	<p>○大分県ふるさとガイド連絡協議会の交流研修会を開催し、ガイドの資質向上を図るとともにガイド同士の情報やノウハウの交換を促進する。 ○観光客通訳案内士や特区ガイド等の実践的なスキルアップ研修を実施し、外国人観光客に対する観光案内や関係者の招請等におけるアテンド業務に対応できる人材の育成を図る。</p>

(3) 情報収集・発信事業

<p>① 情報発信誌等発行 (担当：地域)</p>	<p>○観光情報誌「Gururitto～ぐるり～」を季刊発行し、県内及び九州内や中国地方などの高速道路サービスエリアや道の駅、公共交通機関のターミナルなどに配布する。</p> <p>○観光動向の情報を集約・整理するとともに、既存パンフレット類の集約や構成見直しにより、より効果的・効率的に観光誘客につながる情報発信媒体を制作する。</p> <p>○「おんせん県おおいた観光情報公式サイト」(ツーリズムおおいたホームページ)における日本語サイトの随時更新、海外向けサイトの定時更新(原則月2回)を行い、旬な情報、季節を先取りしたタイムリーかつ効果的な情報発信を行う。</p> <p>○FacebookやTwitterなどSNSの機動性を有効に活用した情報発信強化に取り組む。</p> <p>○旅行会社やメディアに対して、商品の造成や販売に向けた観光素材、施設情報を提供するニュースター(おんせん県 PRESS)を発行し、旅行商品造成や誘客促進を図る。</p>
<p>② 将来のリピーター確保対策 (担当：地域)</p>	<p>○大学生観光まちづくりコンテストを開催し、県内外の若者による本県の魅力再発見、観光まちづくりの提案を通じて、将来のリピーター化を促進する。</p>
<p>③ ツーリズム商談会 (担当：地域)</p>	<p>○市町村や観光協会、県内観光関係者等と連携して、招請型商談会を開催(11月頃予定)し、旅行会社や在日ランドオペレーター等との関係を強化するとともに、旅行商品の造成・観光誘客を促進する。</p> <p>○商談会やセールス等で活用できる観光素材集等のセールスツールを制作する。</p>

(4) 農山漁村ツーリズム育成事業

<p>① 人材育成研修 (担当：地域)</p>	<p>グリーンツーリズム研究会事務局や行政担当者等の商品開発・企画力やセールス力、危機管理等の研修を実施し、地域の受入態勢の資質向上を図る。</p>
<p>② 情報発信 (担当：地域)</p>	<p>外国人観光客の取り込みを見据えた農林漁家体験民宿の紹介など、グリーンツーリズムの魅力を集約した情報誌を作成し、広く情報発信する。</p>

Ⅲ 国内観光客の誘致促進

熊本地震による観光客の減少からの観光客の回復を本格的なものとするため、近隣の九州・中四国エリア、交通アクセスが豊富な関西・中部エリア、人口が集中する首都圏を中心とした東日本エリアに対し、各エリアに応じたプロモーションや旅行業界へのセールス展開、強みを生かした旅行会社や交通事業者等との連携を図ることにより、各ターゲットに対して効果的な誘客促進を図る。

(1) 九州・中四国エリア誘客対策事業

国内の宿泊客が伸び悩んでいる中で、高速道路網やJR・フェリーなどの交通アクセスの利便性の高い九州・中四国エリアからのさらなる誘客に取り組む。

<p>① 九州エリア (一部新) (担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none">○熊本地震からの本格復興へのアピール、安定的な誘客が見込める福岡圏域を中心とした誘客の促進、さらには全国からの誘客を促進するため、JR九州や関係機関と連携して大分・熊本誘客キャンペーン(7月～12月)を展開する。○旅行会社と連携して、団体バスツアーの商品造成・販売支援を行い、団体客の確保と県内周遊を促進する。○県内の各社旅連や県福岡事務所等と連携したセールス・キャラバンを実施する。
<p>② 中四国エリア (担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none">○マツダスタジアムや広島市内商業施設等でのイベント開催、キャラバン展開を通じた情報発信を行い、さらなる誘客につなげる。○フェリー航路に加え東九州道開通を契機に観光流入導線が豊富な山口県と連携して、相互協力による情報発信、誘客対策を実施し、瀬戸内エリアの連携を推進する。○四国圏域においては、豊富な航路を持つフェリー会社や旅行会社と連携した情報発信、誘客に取り組む。○NEXCO西日本と連携した「大分・宮崎ドライブパス」を活用し、中四国エリアからの誘客促進を図る。

(2) 関西・中部エリア誘客対策事業

近年減少傾向にある関西・中部エリア発の観光客の入込を確保することは、今後の大分県観光を活性化する上でのキーとなる取組であり、新たな観光資源を磨き、発信することにより誘客をさらに進める。

<p>(担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none">○関西・中部発の宿泊観光客が減少する中、送客力を持つキャリア等との連携した旅行商品の造成販売を強化する。JR西日本や旅行会社と連携して、送客力のある新幹線との接続を考慮した商品造成支援を実施する。○おんせん県CMやJR九州やJR西日本との誘客キャンペーン等と連動した情報発信・旅行商品の造成を促進する。○民間事業者や県大阪事務所等と連携した共同セールスやキャラバンの実施、商談会等を通じたフェリー、航空機を活用した商品造成を促進し、誘客につなげていく。
----------------	--

(3) 東日本エリア誘客対策事業

熊本地震の影響により東日本エリアからの宿泊者数は落ち込みを見せ、現在も回復には至っていない。一方で、温泉などの豊かな自然資源、世界遺産等を持つ九州は、首都圏を中心に好奇心旺盛なアクティブシニアや働く女性、マニア層、富裕層を呼び込める素材は豊富であり、さらなる誘客に取り組む。

(担当：誘致)	○熊本地震以降、遠方エリアほど観光客の回復が遅れている状況にあることから、ツーリズムEXPOジャパン等の大型イベントへの出展、テレビや各階層をターゲットにした専門誌等メディアを活用した効果的な情報発信を県東京事務所と連携して実施する。 ○主要な観光流入導線である航空機を利用した旅行商品販売に積極的な旅行会社等との連携を図り、商品造成、販売、プロモーションを展開する。 ○航空事業者と連携した県内周遊型の大分専用旅行商品の造成や機内誌等を活用した情報発信を促進する。
---------	---

(4) 団体誘客対策事業

① MICE誘致の推進 (担当：誘致)	○MICE誘致の窓口として、大分県MICE誘致協議会構成団体と連携し、団体や企業情報の収集やMICE開催データの充実を図る。 ○インバウンド誘致対策事業と連携して、海外からのMICE誘致を強化する。 ○インセンティブの提供等も含めた誘致ツール開発を検討するとともに訪問セールスを実施し誘致を推進する。
② 教育旅行誘致の推進 (担当：誘致)	○九州内の近県、広島を中心とした中国地方、大阪、京都、兵庫といった関西以西のエリアをターゲットに、教育旅行を取り扱うエージェント担当者の招聘や商談会等を通じ、誘致を推進する。 ○学校関係者や施設関係者等と連携して、グリーンツーリズム、留学生との交流事業以外の新たな学習素材のコンテンツ開発を促進し、セールスツールの充実を図る。

(5) 空港利用促進事業

① 情報発信・受入環境整備 (担当：誘致)	○航空機利用の国内外観光客向けの機内誌や県内周遊パンフレット、サイクリングおおいたHP、Web広告等による情報発信を実施する。 ○空港利用者の県内周遊を促進するため、二次交通の環境整備に向けて、タクシーを活用した実証実験を実施する。
② 航空会社との連携促進 (担当：誘致)	○大分空港就航の航空会社と連携し、各社の持つ特性を活かした効果的な情報発信や県内周遊型の旅行商品の造成・販売を促進する。 ○主要な発地となる首都圏での誘客プロモーションを展開する。

IV 広域観光連携の推進

(1) 東九州軸・九州横断軸連携事業

① 東九州軸連携誘客 (担当：誘致)	宮崎県や九州観光推進機構等と連携した誘客キャンペーンやメディアを活用したプロモーションを展開し、東九州自動車道開通以後、順調に推移している九州各県や山口・広島を中心とした中国地方からの観光誘客を促進する。とりわけ、大分・宮崎両県の豊富な海の資源を活用した食、レジャーでの入込客の増加を図る。
② 九州横断軸連携誘客 (担当：誘致)	○九州横断3県(大分・熊本・長崎)が連携して、テーマ設定(温泉・火山・ジオパーク、世界に誇る歴史文化、多彩なグルメ)と連動した観光素材情報の発信やセールス展開、商談会の開催により、かつて九州観光のゴールデンルートと称された九州横断軸観光の再興を促進する。 ○世界遺産認定を待つ「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」とあわせて、県内のキリシタン関連観光素材を含む周遊ルートの商品造成、販売を促進する。

(2) 広域観光推進組織連携事業

(担当：誘致)	○九州観光推進機構と連携した旅行会社向け商談会や誘客プロモーションを実施するほか、その他広域連携組織との相互連携を図り、相互交流や情報発信を通じて、効率的な誘客を促進する。 ○九州全域など広域的なマーケティングデータの分析・蓄積手法等について、九州観光推進機構や各県観光連盟等と連携して、調査、研究を行う。
---------	--

V インバウンド誘致対策事業

急速に経済発展を続ける東アジアや東南アジアを主なターゲットに、本県の特徴を生かし、国・地域の特性や旅行ニーズに応じたアプローチを行い、誘客を推進する。

また、外国人受入宿泊施設等の拡大に伴い、受入体制を強化する。さらに、ラグビーワールドカップ2019大分開催に向け、欧米向け観光情報の発信や観光素材の開発などの取組を推進する。

(1) アジアにおける国(地域)別対策

① 韓国対策 (担当：誘致)	○本県唯一の定期航空便を有効に活用して、九州ふっこう割助成による誘客効果を継続できるよう、旅行博や商談会等への出展やプロモーションを実施し、観光客の拡大を図る。 ○韓国での現地セールスや旅行博等への参加ニーズに対応するため、県内民間事業者による現地セールス活動等を支援する。 ○リピート客の増加に伴う観光素材ニーズの多様化に対応するため、誘客アドバイザーと連携して積極的に現地情報の収集を行い、新たな素材の提供、情報発信を行う。
-----------------------	--

<p>② 台湾対策 (担当：誘致)</p>	<p>○台中からの定期チャーター便就航効果により、さらなる誘客が期待できるため、現地誘客アドバイザーとの連携したセールス展開や旅行博への出展等により、効果的なプロモーションを展開し、現地での知名度向上を図る。</p> <p>○九州観光推進機構や県内市町村等と連携した台中での商談会の開催や、航空会社や旅行会社等を対象としたファミトリップ等を実施して、誘客を促進する。</p> <p>○急速な個人旅行化を見据え、パワーブロガーの招請や個人向けのガイドブック制作など、個人客やリピーターの確保を図る。</p> <p>○県教育庁や教育旅行誘致協議会との連携を強化し、台湾教育行政及び学校関係者へのセールス活動の実施、招請や視察、学校交流の受入環境の充実を図る。</p>
<p>③ 香港・中国対策 (担当：誘致)</p>	<p>○リピーター、個人旅行の比率が高く日本文化への関心も高いことから、誘客アドバイザーと連携して、現地メディアを通じた旬な情報の発信、ブロガー招請による個人客の取り込みを図る。</p> <p>○現地の有力旅行社や県海外親善大使等との連携を強化して、市場動向にあわせた効果的なセールス展開により、さらなる誘客に取り組む。</p>
<p>④ タイ対策 (担当：誘致)</p>	<p>○ASEAN諸国の中でも親日的で、個人客を中心に訪日観光客が急速に増加していることから、タイ語によるブログ制作、日系旅行会社との連携したWEBを活用した情報発信を行う。</p> <p>○タイ旅行業協会が主催するアセアン最大の旅行博（TITF）への出展など、効果的なプロモーションを展開して現地での知名度向上を図る。</p> <p>○現地アドバイザーと連携し、現地旅行会社などの観光業界とのネットワークを深化させ、商品造成、誘客につなげる。</p>
<p>⑤ ベトナム対策 (担当：誘致)</p>	<p>急速な成長を遂げており、親日的で大幅な伸びが期待されていることから、日系旅行会社と連携した旅行博でのプロモーションを実施するとともに、主力旅行会社とランドオペレーターを招請し、旅行商品の造成を促進する。</p>
<p>(2) ラグビーワールドカップに向けた欧米対策強化事業</p>	
<p>① ガイドブック・SNS等を活用した魅力発信 (新) (担当：誘致)</p>	<p>○欧米からの訪日観光客は、全国的には約810万人を超える中、県内述べ宿泊者数は1万5千人程度であるが前年対比169%と大きな伸び率を示している。</p> <p>○ラグビーワールドカップ2019大分開催を見据えて、大分県観光の知名度向上が不可欠であることから、影響力のあるミシュラングリーンガイド（Web）やラグビー強豪国へのSNS等による情報発信、大手宿泊予約サイト等の媒体・機会を活用した積極的なプロモーションを実施する。</p>

<p>② 各県連携による旅行会社・メディア対策（新）</p> <p>（担当：誘致）</p>	<p>○九州各県と連携した英国等旅行会社やメディアの招請を実施し、高所得者層をターゲットにしたワールドカップ観戦観光ルートの構築を図る。</p> <p>○東京や京都などのいわゆるゴールデンルートからの誘客を図るため、東京都や航空会社等と連携した導線づくりに取り組む。</p>
<p>（３）訪日修学旅行誘致推進事業</p>	
<p>（担当：誘致）</p>	<p>○誘客が期待できる国々の教育行政や学校関係者や旅行会社に対するセールスや説明会でのプロモーションに積極的に取り組む。</p> <p>○県教育庁や学校関係者、教育旅行誘致推進協議会等との連携を強化し、学校交流の円滑な受入調整の対応や地元の受入態勢の強化を図る。</p> <p>○県内市町村等が実施する訪日教育旅行関係プロモーションや招請事業等における支援体制を構築する。</p>
<p>（４）広域連携・情報発信事業</p>	
<p>（担当：誘致）</p>	<p>外国人観光客の旅程は、複数県を跨ぐものが一般的であり複数県による連携事業が効果的であることから、国の広域連携事業（V J 事業）を活用した各広域観光ルートの形成、招請事業、情報発信を実施する。</p>

VI ツーリズム推進態勢強化事業

<p>（１）総会の開催</p>	
<p>（担当：経営）</p>	<p>会員の総意に基づき、ツーリズムおおいたの事業を推進するため、通常総会を年1回開催する。通常総会においては、前年度の事業報告や決算報告を行うとともに、新年度の事業計画案、収支予算案を諮り、その承認を求める。また、大分県のツーリズム振興に特に功績のあった団体・個人に対してその功績を称え、表彰を行う。</p>
<p>（２）理事会の開催</p>	
<p>（担当：経営）</p>	<p>通常理事会は、年3回（6月、10月、3月）開催する。</p>
<p>（３）運営会議及び事業企画委員会の開催</p>	
<p>（担当：経営） （担当：地域）</p>	<p>事業活動の円滑な運営と活性化を図るため、会長、筆頭副会長及び副会長からなる運営会議を開催する。</p> <p>また、事業企画委員会において、おんせん県おおいたのツーリズムの舵取り役として中核的役割を担えるよう、マーケティングに基づく戦略的な事業企画提案を行い、大分県観光を牽引する。</p>

(4) 財政基盤の強化 (収益事業)	
<p>(一部新) (担当：経営) (担当：地域)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○公益事業を推進するための財源を確保する観点から、おんせん県おおいたのロゴマークを活用したグッズ販売の販路拡大、商品開発に積極的に取り組む。 ○着地型企画旅行商品の造成、販売におけるリスクマネジメントや基幹システムの構築など、環境整備に取り組む。 ○広告媒体の提供、セミナーや企画事業への参加の一部有償化など、新たな収入増加を図るための手法を検討し、財政基盤の強化を図る。
(5) 会員との連携強化	
<p>(担当：経営)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「ツーリズムおおいたNEWS」を発行し、各種事業の実施予定や実施状況、観光動向など迅速かつきめ細かな情報提供を行う。 ○会員訪問等による会員ニーズの共有を図るとともに、セミナーや商談会等への積極的な参加を誘引し、会員メリットの創出に努める。
(6) 組織の機能強化と連携推進	
<p>(新) (担当：経営) (担当：地域) (担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○観光立国の実現に向けて、国による投資も選択と集中型に移行する中、大分県観光の競争力を強化するため、組織の機能強化を継続的に推進する。 ○急速な訪日外国人観光客の増加、ラグビーワールドカップ2019大分開催や国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭の開催を見据え、関係機関との連携を強化する。 ○観光産業には多様な業態が関わっていることから、観光業だけでなく、商工業や農林水産業など他業種との連携を強化し、効果的・効率的な事業執行を図る。